

I. 概要

【主担当部局】名古屋市教育委員会特別支援教育課
（特別支援学校担当）

【主な関係部局】名古屋市教育委員会高等学校教育課
（公立高等学校担当）

【自治体 本事業関連URL】
<https://www.city.nagoya.jp/kyoiku/page/0000172287.html>

本事業の 目的	【当該地域におけるこれまでの課題】 ・商業高校と同じ敷地内に高等特別支援学校が開校し、インクルーシブ教育を推進する環境があるが、実践を進めるためのノウハウがない。 ・高等学校段階では交流及び共同学習が少ない。 ・高等学校と特別支援学校の教育課程やその具体的な進め方について情報共有の機会が少ない。
	【本事業を通して達成を目指す目標】 ・両校で合同授業ができる単元を計画・実施し、インクルーシブな学校運営の推進体制を構築する。 ・両校の教職員が互いの学校の教育課程や在籍する生徒の特性などの理解を深める。 ・様々な調整において、両校の学校教育目標が達成される推進体制、推進方法を明らかにする。

学校運営 連携校	特別支援学校	小・中・高等学校
	名古屋市立若宮高等特別支援学校 （生徒数）高等部：40名 （障害種）知的障害	名古屋市立若宮商業高等学校 （生徒数）464名

カリキュラム・ マネージャー	【配置人数】 1名	【主な経歴】 特別支援学校教頭、中学校教頭、高等学校非常勤講師
	【本事業における役割】 ・両校のカリキュラムマネジメントを通じて、両校の生徒が可能な限り同じ場で共に学ぶ環境の整備を促進する。 ・教職員、保護者、関係者間の効果的なコミュニケーションを確保し、両校の連携を強化する。 ・連携推進委員会において、ファシリテーターを務め、それぞれの目標達成の立場を尊重し、計画・立案を支援する。	

連携協議会	【構成人数】 11名	【開催回数】 3回	【外部専門家】 大学名誉教授1名、教育研究所研究員2名
	【連携協議会において検討・議論した主な内容】 ・交流及び共同学習全体計画 ・学習活動における連携（美術、保健体育など）、学校行事における連携（体育祭・文化祭・サポーターズフェスタなど）の検討・報告 ・日常生活における生活指導（挨拶、ルールなど）、生徒会活動、部活動における連携		

2. 交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討

交流及び共同学習の発展の方向性・ねらい

- ・ 美術・保健体育等において、共に学ぶことにより、学習効果の拡大・向上を図る。
- ・ 職業専門コースと商業科の教育課程の関連づけを図り、実践的で社会に開かれた教育の推進を図る。

実施内容

①		②	
対象学年：	若宮高等特別支援学校1年と若宮商業高等学校1年	対象学年：	若宮高等特別支援学校1年と若宮商業高等学校2年
回数・教科：	計3回（美術2回、体育1回）	回数・教科：	計2回（特支総合と商業理科（生物基礎）2回）
主な内容：	美術：カードゲーム、レタリング 体育：男子 卓球 女子 バスケットボール、バドミントン	主な内容：	池、河川などを取り巻く自然環境のもと、人間の商業活動と生物の共生を考える。

指導内容・指導方法の工夫

- ・ 両校の教員がそれぞれT1を務める授業を行い、両校の生徒を指導する機会をもつことで、それぞれが主体的に指導内容・指導方法を考える。
- ・ 題材をゲーム化することにより、両校の生徒が取り組みやすい動機づけ、就労場面での活用をできるイメージをもたせる。
- ・ グループ分けでは、各校の生徒が単独にならないようにして、安心できるようにする。

交流及び共同学習の成果

- ・ 生徒に伝わりやすいユニバーサルデザイン化された授業づくりの視点をもって授業を計画・実施することができた。
- ・ 相手のよさや努力した部分に気付くことができた。
- ・ 考え方が違ったり、自分たちとは違うひらめきをもっていることに気付く生徒もあり、学習を深めることができた。



3. 現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方

教員や専門スタッフの配置等の工夫

- ・ 授業の計画、実施、評価へのカリキュラムマネージャーが参画し、目標の設定や課題の確認、支援の在り方について、整理するようにした。特別支援学校の開校に際し、様々な運営方法の再検討が迫られる中、常に交流及び共同学習の実施を念頭に置いた検討を進めることができた。
- ・ 授業の実施にあたっては、両校の教科担当が中心指導者を務める形で実施した。授業の必要に応じて特別支援学校の教員が小グループなどの補助指導者を務めた。両校の生徒の実態を知る教員が同時に授業に参画することで、生徒・指導者ともに安心感をもって授業に臨むことができた。

学校運営連携校間の一体的で専門性を生かした指導体制の構築

- ・ 文化祭やチーム若宮サポーターズフェスタ（特支開校記念式典）において、商業高校の商業科課題研究「商品開発と流通」、「株と投資」の授業で研究を進めてきた商品の製造及び販売活動を実施した。特別支援学校の職業科の学習に関連して、販売活動の補助を務めた。商品開発・製造を商業高校教員が計画・実施し、販売活動を進めるにあたり必要な支援や配慮を特別支援学校教員が実施した。それぞれ単独校での実施ではできない活動の広がりや配慮の行き届いたきめ細かな実施ができた。

各学校運営連携校における校内体制の構築

- ・ 商業高校3年生における普通科商業科選択授業において、「商品開発と流通」「ソフトウェア活用」「観光基礎」「デザイン基礎」「ビジネス会計」の授業内容の説明と、特別支援学校の生徒は興味関心のある科目を選択し、合同授業を行う提案があり、特別支援学校で検討した。特支は1年生のみの在籍で専門コースがまだ始まっていないことから、翌年以降の実施の検討となった。

教員研修の実施

- ・ 山形大学三浦教授による特別支援教育講話及び教育課程編成にかかる助言を実施した。実際に授業を進めるうえでの目標設定や合理的配慮の在り方について具体的な示唆を得ることができた。
- ・ 国内のインクルーシブ教育先進校の実施状況についての視察（兵庫県立阪神昆陽高等学校・特別支援学校、沖縄県立南風原高等学校・高等支援学校、滋賀県立甲南高等学校、神奈川県立上矢部高等学校、大阪府立桜宮高等学校、金沢大学附属特別支援学校）で具体的な連携の在り方について示唆を得ることができた。
- ・ 国内の特別支援学校における職業専門コースの実施状況についての視察（岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校、三重県立くわな特別支援学校、京都市立鳴滝総合支援学校、横浜市立若葉台特別支援学校、大阪府立たまがわ高等支援学校）



4. 課題と展望

令和6年度事業における課題

【交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討】

・ 美術、保健体育の合同授業の実施を経て、生徒によってそれぞれ個別の到達目標を設定して授業に臨むことで、生徒個々の評価を行うことはできた。しかし、それらの生徒が学習内容を理解したり、技能を習得したりすることに要する時間に差があることが明らかになったため、同じ題材を使って共同学習を進めるにあたっては、効果的な活動のタイミングを見図って計画的に合同授業を設定する必要がある。

・ 商業高校に非常勤講師が多いこと、共用する特別教室の数や大きさに限りがあることから、合同授業を実施する際の時間割変更が難しい。

・ 特別支援学校における職業専門コースと商業高校における商業科といった専門性の高い教科については、それぞれの教育課程における目標が異なるため、同じ場所で合同で授業を行うことは、教育活動を充実させづらい面がある。

【現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方】

・ 両校の教員が互いの教育課程や授業の進め方についての知識が不足している現状がある。そのため、自校の教育課程に生かすことができる互いの専門性に気付けていない部分がある。

令和7年度事業の展望

【交流及び共同学習を発展させた柔軟で新しい授業の在り方の検討】

・ 美術、保健体育については、合同で進める題材を設定するにあたり、必要な時間数を精査し、各校で計画的に教育課程における合同授業を設定する。

・ 合同授業を実施する教科については、あらかじめ同日や同時間の時間割を編成し、時間割変更が容易に対応できるようにする。

・ 両校の専門教科については、取り扱う題材を共有することで、互いの教育課程が関連しあうことができるようにする。

【現行の教員配置にこだわらない専門性を高めた授業実施のための体制構築の在り方】

・ 取り扱う内容や題材の共有を目指し、両校の現行の教育課程の広がりや深まりが実現できるよう、カリキュラムマネージャーが中心となって、互いの専門教科の教育課程の重なりや関連を明らかにする。

・ 両校教員による授業参観を充実させ、互いの教育課程の理解を深めることができるようにする。